



鎌ヤングちゃんが行く!  
第63回

## 新着図書案内 7月~9月

- ★『スラムに水は流れない』 ヴァルシャ・バジャージ
- ★『シンプルとウサギのパンパンくん』 マリー=オード・ミュライユ
- ★『わたしは食べるのが下手』 天川 栄人
- ★『血められた都市伝説』 三津田 信三/ほか
- ★『AIに書けない文章を書く』 前田 安正
- ★『ロアルド・ダールコレクション 21 ビリーと森のミンピン』 ロアルド・ダール
- ★『ここから出して(キミが開く恐怖の扉ホラー傑作コレクション)』 菊地 秀行/ほか著
- ★『あの子を自由にするために』 アン・クリア・レゾット
- ★『大学図鑑! 2026』 オバタ カズユキ/監修
- ★『正しい目玉焼きの作り方』 毎田 祥子/ほか監修
- ★『わたしは、跳ぶ!』 トランポリン部 (こんな部活あります) 濱野 京子
- ★『サンショウウオの歌が聞こえてくるよ』 生物部 (こんな部活あります) 森川 成美

この他にもあります!  
詳しくはホームページのYAページで!  
このQRコードを読んでね!



この物語の主人公はコペルくんという14歳の少年です。叔父さんが子供の時に読んだという、本の主人公にちなんでつけられたあだ名です。

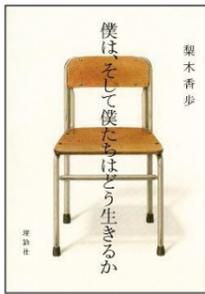
これでピンときた人もいるでしょう。『君たちはどう生きるか』の現代版ともいうべき本なのです。コペルくんは叔父のノボちゃんと一緒に友達のユージンの家に行きます。染色家のノボちゃんが染色に使うヨモギが欲しいと言うので、ユージンの家なら庭にあるはずと、行くことにしたのです。

しかしそこで、広い敷地内にインジャと呼ばれる、心に傷を負った女の子が住み着いていることに気がついて…。ユージンやインジャの過去に起こったことに、いろいろ考えさせられます。彼らに身に起こったことは悲しいことですが、誰の身にも起こりかねないことなのです。

この物語は、ユージンの庭でのたった一日のお話なのですが、かけがえのない一日の物語です。

### スタッフのおすすめ

『僕は、そして僕たちはどう生きるか』  
梨木 香歩/著  
理論社



# YA! 新聞

2025.秋 第63号 鎌ヶ谷市立図書館 (047)443-4946

鎌ヶ谷市立図書館の蔵書冊数は、本館と分館あわせて約30万冊。所蔵がない本はリクエストしてね。県内の他の市の図書館から借りることができるかもしれないわ!

鎌ヤングちゃんからひとこと



## テーマ別おすすめ

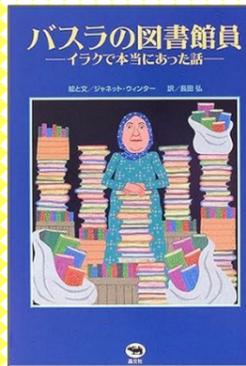
# 図書館

読書の秋!  
学校や街の図書館へ行こう!  
図書館が舞台の本を読んで  
図書館に詳しくなってみて!



『図書館戦争』  
有川 浩/著  
KADOKAWA

日頃の図書館や本にまつわる問題に触れていて、シリアスな面もありますが、登場人物同士の会話がとても面白く、特に、笠原郁や堂上篤の言動に注目してほしいと思います。また、現実とかげ離れてしまっている部分もありますが、図書館がどのようなところか描かれているため、図書館が好きな方もそうでない方も、ぜひ、この本を機に知ってほしいなと思います。(ペンネーム: はーちゃん)



『バスラの図書館員 イラクで本当にあった話』  
ジャネット・ウィンター/  
絵と文  
長田 弘/訳 晶文社

マリア・ムハンマド・バクルさんはイラクの港町、バスラの図書館員で、バスラの図書館は本が好きなイラクの人たちが集まってくる所で、ある日戦争がくると予想されていて、それを知って約3万冊の本を守ろうとしていて、自分の好きな物を守ろうとしている姿が、かっこいいと思ったし、すごく読みやすい!  
(ペンネーム: KAMA5)



『教室に並んだ背表紙』  
相沢 沙呼/著  
集英社

図書委員のあおいは、苦手な同級生を図書室で見かけた。本に興味がないはずの彼女が、毎日来るのはなぜだろうと疑問を抱いて…。

「その背に指を伸ばして」ほか、学校の図書館をめぐるお話6篇からなる短編集です。それぞれ独立したお話ですが、実は登場人物がひっそり数珠つなぎのように関係しています。そして最後のお話を読んだとき、この本全部のお話の“仕掛け”に気付いて驚くかも…。

## みんなからのこの本おすすめ

『君たちはどう生きるか』  
吉野 源三郎/著  
マガジンハウス



主人公の本田君(コペル君)が友達を裏切ってしまい、コペル君は罪悪感でいっぱいになり、熱が出るほどでした。そこからお母さんのある話を聞き、たちなりました。その話が自分にも似た体験があり、とても印象に残っています。小学6年生とかだとそういった経験もあるのではないのでしょうか?

(ペンネーム 中学楽しみな人)



『ライブラリー・ツインズ ようこそ、月島大学図書館へ』  
日野 祐希/著  
アリス館

「この成績では内部進学が難しい」と告げられた月島大学附属中の3年生・菜織。でも夏休みに大学図書館でボランティア活動をすれば内部進学できると言われ、お目付け役の双子の弟、健史とともに、大学図書館の仕事を手伝うことになりました。製本や活版印刷、図書館のことも詳しく知ることができます。挿絵も可愛いです。